

福祉用具の豆知識～移乗編③～

※生活をもっと豊かにするために、福祉用具を使ってみたい…そう思ったら、身近にいる理学療法士、作業療法士、看護師、ケアマネジャー、ケースワーカー、保健師などに相談してみましょう。

リフトの利用は移乗動作に重度の介助が必要となる場合に有効な手段ですが、吊り具が利用する人の体に合っていることが重要です。本人の身体機能・禁忌事項、介助者の能力、移乗先、支える必要がある部位がどこであるかによって、適した形状・大きさ等が異なります。本人・介助者が共に安全にリフトを使うためには介助者が正しい装着方法を習得し、よい吊り姿勢を理解しておく必要があります。姿勢保持のポイントとなる、吊り具の種類を今回ご紹介します。

脚分離型吊り具

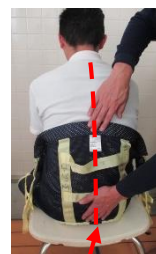
足を支える部分が分離した形状で、頭部を支持するハイバック型(写真①)と支持しないローバック型があります(写真②)。お尻の下に完全に敷く必要がなく、車椅子上でも着脱できることが特徴です。吊り具にしわができると痛みを感じることもあるので、しわができていないか確認しながら吊り上げます。装着の際は吊り具を写真③のように深く差し込み、お尻から太もも部分を広く覆うことで安定した姿勢を作ることができます。



写真①



写真②



吊り具の中央を背骨の位置と合わせ先端を尾骨周辺まで深く差し込む

写真③

シート型吊り具

体全体を包む形状をしており、上記の吊り具と同様、頭部を支持するハイバック型とローバック型があります(写真④)。ベッド上など寝た姿勢で体の下に敷く必要があります。車椅子へ移乗する場合は吊り具を敷いたままの状態での活動することになります。広い接触面積で包み込むので、多部位の支えと安心感を必要とする人に適しています。



写真④

セパレート型吊り具

二つのベルトで構成されています(写真⑤)。脱着の手間が最も少なく、本人自身で脱着する場合によく利用されます。適切な位置にベルトが固定できないと痛みが生じたり落下の危険性があるので、姿勢保持が可能か確認が必要です。肩関節周囲や股関節の安定性が十分にある方に適しています(写真⑥)。



写真⑤



写真⑥

選択および使用上の注意点

吊り具の種類は他にも、トイレ用の吊り具やお風呂用のメッシュタイプなど様々なものがあります。選定の際、導入後など必要に応じて専門職に相談するとよいでしょう。吊元で長さを調整することで、楽な吊り姿勢になるよう調整することも大切です。また、吊り具の装着や操作の手順に慣れることも、リフトを日常的に使うためのポイントになります。吊り具の劣化や破損は事故につながる可能性もあるので、洗濯方法やほつれ等を確認し安全な使用を心がけましょう。